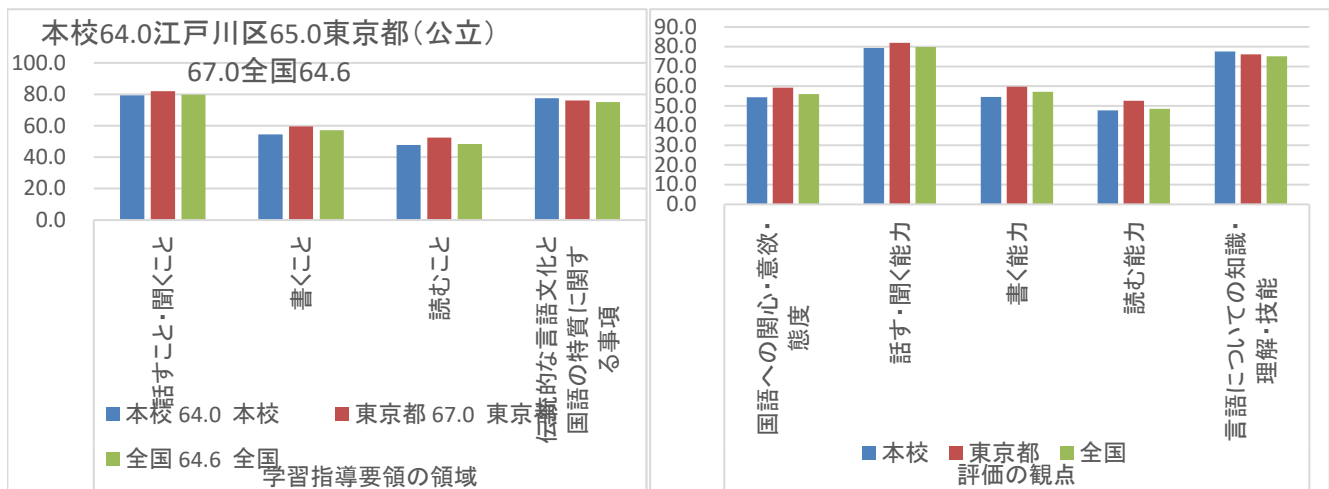


1 全体・観点別平均正答率の分析

(1)全体



全体では都平均を3ポイント下回った。評価の観点の「言語についての知識・理解・技能」では都平均を1ポイント上回っているものの、その他の観点では全て下回っている。ここから、本校の生徒は漢字や語句を丁寧に練習し、習得することに長けているが、国語における思考力・判断力・表現力に課題が見られるということが分かった。日々の授業を通して、それらを伸長することが寛容である。

(2)国語への関心・意欲・態度

都平均に対し5ポイント近く下回っている。話し合いの方向性を見極めての発言を問うものや、書かれた文の自分の意見を述べるもの、相手への質問を考えるという問題だったが、記述問題でもあったため、「分からない」というよりも「自信がない」という理由で書かないことも多かったと思われる。これは授業の中で日常を模した実践的な言語活動が足りていないことが原因と言える。国語の力を実践的に使う場を増やすような指導の工夫を図る。

(3)話す・聞く能力

都平均を2.5ポイント下回った。特に、話し合いの中で誰がどのように発言すればよいかを答える問題が一番できていなかった。意識的に対話を行わせ、そこでの自他の発言を振り返り、その意義や役割について考える授業をするなどの工夫を図る。

(4)書く能力

都平均を5ポイント程度下回っている。頭に浮かんだ事柄の内容を、書き言葉に直して書くことが苦手な生徒が多く、情報が的確に伝わるよう一語一語にこだわって文を作る、ということが難しい。他人が書いた文を自分が直すなどの経験をより増やしていく。

(5)読む能力

都平均から5ポイント下回っている。中でも特に慣用的表現を文脈で読み解く力が不足している。本校の生徒たちは事実を捉えることは得意である反面、比喩的な表現や慣用的な表現の理解が難しいと考えている。授業で文中に使用される語句について丁寧に読ませることや、名作と呼ばれる文章や作品を意識的に読ませるようにする。

(6)言語についての知識・理解・技能

都平均を1ポイント上回った。漢字や語句について練習をして身に付けることが得意なため、それらの知識はかなり高い水準にあると言える。しかし、文法や古文に対して苦手意識や知識不足が見られるため、文法や古文への興味を高める指導の工夫をしていく。

2 授業改善案

- ①国語の授業の中で、大きな視点と小さな視点を使い分けて文章を読む指導をする。
- ②自らの考えをなるべく文字にし、より伝わりやすくする工夫をさせる。
- ③フリーの話し合い活動と、ディベートのようなルールやマナーのある話し合い活動の両方を意識的に行わせる。
- ④今まで行ってきた漢字の小テストのみならず、慣用句や文法の小テストも設定していく。
- ⑤生徒同士が自分たちの言葉や文字で交流をしていけるような指導の充実を図る。